

献辞：森本良男教授退任記念号の刊行にあたって

社会学部長 宮 本 孝 二

森本良男教授は、2000年4月1日にめでたく古稀を迎えられ、2000年3月末日を以て本学を退任されることになりました。本号は、森本先生の多年にわたる学問的御功績を讃えるとともに、本大学や本学会に対する多大な御貢献にささやかな感謝を捧げるための記念号です。

先生は、1955年に東京外国語大学ロシア語科を卒業され、同年に読売新聞社東京本社に入社、モスクワ支局特派員、ワシントン支局長、論説委員、外報部長などを歴任されたのち、1984年4月に桃山学院大学社会学部教授に就任されました。就任後すぐに社会学部の教育研究の中心となられ、はやくも1990年4月より1992年3月まで社会学部長を務められ、さらには阪神大震災によって学部長予定者が辞退した1995年4月より1996年3月まで2度目の社会学部長職に就かれました。

16年間の御在職期間は決して長くはありませんが、学部長の激職を2度も務められたのをはじめとして、大学評議員など各種の要職を歴任され、教育においても第1期ゼミ生からマスコミ就職者を巣立たせるなど、顕著な多数の功績をあげられました。先生はきわめて寛容なお人柄ではありますが、大学というともすれば閉鎖的独善的になりがちな組織風土に、厳正かつバランス感覚に富んだ社会的な視点を導入されました。また、本学御在職時に本誌巻末の著作目録に見られますように、3冊もの単行本を刊行されています。この先生の教育研究上の多大な御功績に報いるため、本学は「桃山学院大学名誉教授」の称号をお贈りすることを決定しています。

先生が今後とも御健康に留意され、ますます御活躍されることをお祈り申し上げますとともに、私共本学に残ります者に対して引き続き御指導を賜りますように切にお願い申し上げます。

2000年2月